

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	単価の動き	・暑い日が続き、なかなか秋物が稼働しなかった面もあったが、急に冷え込み、気温の寒暖の差が激しくなったため、防寒物など、単価の高い商品が少し動き始めた。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・気温が低いせいもあり、重衣料、特にコートの動きが顕著である。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は今月に入っても堅調に伸びており、客の購買意欲も高まってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月は、ここ3か月間と比較しても販売量が伸びており、前年比103%と前年を上回っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・寒暖の差が激しく、衣料品が好調に推移している。来客数も伸びている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数、買上客数とも、順調に伸びている。商品単価が横ばいであることから、集客の良さが売上につながっている。特に気温低下の影響で衣料品の動きが好調である。ただし、無駄なものは購入しないという慎重な姿勢は相変わらず変わっていない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果で薄型テレビの売上が好調であり、全体の売上も、前年を大幅に上回っている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・エコポイント制度の大幅変更に伴い、薄型テレビの需要が前倒しになり、好調な売行きである。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・紅葉シーズンを迎え、客室の稼働が高くなってきている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行については、企画商品の需要が高くなってきているものの、業務性の個人需要が低下していることから、前年比94%となっている。一方、海外旅行については、個人の団体需要が増加しており、前年比155.8%となっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・10月の取扱額は、国内旅行が前年比103%、海外旅行が前年比123%となっており、久しぶりに国内旅行、海外旅行とも前年を上回った。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・社会的に景気が上向き施策や対策が打たれている訳ではないが、来年は良い年にしたい、しなければいけないという客の意識を強く感じる。あくまでも個人レベルでの話だが、必要な物には出し惜しみをせずに出し、受身から攻めの意識を持つ客が多くなっている。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期は過ぎたが、公共事業を始めとする各種工事やそれに付随する物資輸送が増加している。	
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・10月に入り、天候が例年並みとなったことから、衣料品にやや動きがみられたが、全体的には水面下から浮上していない状況が続いている。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・景気の上昇もなかなかみられず、先行き不安の状況が1年以上も続いていることから、消費者の買い方も慎重なものから生活防衛型のものになっており、必要最小限の物しか買物をしなくなっている。	
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・想定していたとおり、9月のたばこ値上げ前の駆け込み需要の反動減が起きている。また、来客数、買上点数の回復感もほとんど感じられず、価格競争下のデフレ状況は依然として払しょくされていない。	

	スーパー（役員）	単価の動き	・夏の猛暑の影響で果物・米などの農作物の品質が悪いことが売上に影響している。また、9月のたばこ増税前の駆け込み需要の反動が発生しており、たばこの売上は前年比40%となっている。一方、たばこを除外した商品単価は前年比100.1%、客1人当たりの買上点数は前年比101.2%となっており、客単価は前年比101.3%と上昇している。客単価の若干の上昇と商品単価の下げ止まりなど、良い方向に推移している部分もあるが、全体としてはこの数か月大きな変化はみられない。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・年金支給日や給料日の後に買物が集中する傾向が強くなっている。お金の余裕がなく、日々がまんをして、お金のある時に一気に買物をしている様子が見える。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・たばこ増税前後の異常値を除くと、客の購買個数や購入額に大きな変化はみられない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこ値上げ前の買いだめ需要の反動があり、売上は減少しているが、来客数は前年並みで推移している。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品以外の車関連商品の売上が前年より落ち込んでいる状況が続いている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・週末の観光客の入込が良く、売上は前年を2%上回っている。ディナーは来客数、客単価とも前年を上回ったが、ランチは逆であり、特に安価なメニューに人気があることから、客単価の低下が目立っている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず電話注文が減少している。来客数も前年から減少しており、客単価も低下している。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・今月は上旬の天候不良に加えて、紅葉時期が遅れていることや高速道路料金引下げの効果が薄れてきていることから、前年並みの入込客を維持するのがやっとの状況であった。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の様子をみると、現状維持の空気が強く、思い切った買物もしないが、極端に支出を控えることもなく、堅実に消費をしている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・景気が低迷しているため、変化のない状態が続いている。
	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・モデルハウスへの来場客数はほとんど変わらずに推移している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・なかなか景気が良くなり、客からは、収入が上向きにならない、値上がりばかりするという話を聞く。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・前月と比較して来街者数が減少している。また、来街者のうち買物袋を携えている客の数は3分の1にも満たないことから、中心部においては、用事が済めばそのまま帰宅するか、用事の後に飲食をするのみで帰宅していることが推測される。このため、物販については、どの業種も売上が減少している。
	一般小売店[土産]（経営者）	来客数の動き	・新聞やテレビの中国関連のニュースの割に、中国人観光客は今年の夏と比べて少なくなっていない。1番の問題は日本人観光客が減少していることであり、客からは就職難と不況の会話が多く聞こえてくる。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・10月に入り、前年よりも暖かい日が続いている。秋物は10月初旬より動き始め、婦人服、紳士服ともにジャケット・ニット関連の動きが中旬になって良くなってきたが、コートは前年の70%台にとどまっており、非常に厳しい。ヤングキャリアゾーンでは、ジャケットについて今年のトレンド商品よりも、ニットジャケットの方に動きが出ている。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・5～7月にかけては、売上、買上客数が前年を下回ったものの、来客数は前年並みで推移していた。しかしながら、8月以降は売上、買上客数のみならず、客単価も低下傾向にある。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・10月に入り、前半の気温があまり下がらなかったことから、秋冬物が動かず、重衣料の動きも鈍かったため、客単価が低下している。
	百貨店（役員）	単価の動き	・この1か月、客単価の低下及び買上点数の減少が顕著である。

	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・9月のたばこ増税の影響で来客数が大きく落ち込んでいる。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・買物自体が小額化している。金額の大きな物が売れず、小さな物しか売れなくなっている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・受注量が前年比で60%台となっており、受注の落ち込みが大変厳しい状況にある。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の制度終了により、受注台数が大きく落ち込んでいる。小型車の販売も厳しい状況にある。	
	その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・本来、天候には大きく左右されない業種であったが、悪天候が続いたせいか売上が大きく減少している。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ランチの来客数が減少した。30～40歳代の主婦層の利用がめっきり減っており、年齢層がますます高くなってきている。他店の和食料理店も同様で、ビジネスマンや年齢層の低い主婦の姿はみられなかった。夕食は落ち込んだまま、回復の兆しが見えない状況にある。	
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・グリーンシーズンの北海道観光も終わり、冬場に向けての端境期となっており、室数だけは何とか維持しているが、単価の下落傾向が続いている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・9月20日以降、急激に売上が下がっており、景気は下向きとなっている。例年であれば、売上は3か月前と比較して数%程度の低下となるが、今年は3か月前と比較して約11%も下がっている。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・スマートフォン等のタッチ型通信端末の販売は好調であるものの、その他の通信端末の販売が個人を中心に伸び悩んでいる。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・北海道の観光シーズンも終わり、来客数が減少している。来客数は3か月前と比較すると50.9%となっており、前年と比較しても79.4%にとどまっている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・この3か月間、前年と比べて、来客数が5%程度減少している。	
	悪くなっている	一般小売店【酒】（経営者）	販売量の動き	・今月は得意先の新規開店が数件あったにもかかわらず、売上が良くなかった。1件当たりの購買頻度及び購買量がともに減少しているのが大きな原因である。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了に伴い、対象商品の販売量が大きく低下している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー1台当たりの売上をみると、9月は前年を上回ったが、10月は暖かい日が多かったせいか、前年を大きく下回っている。特に夜の繁華街でのタクシー利用が減っている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・10月に入って、モデルルームへの来場者数が大きく落ち込んでいる。エコカー補助金の終了と時期が重なっていることから、その心理的な影響が、客の購買意欲を低下させているとみられる。
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	受注量や販売量の動き	・ここにきて、鉄骨加工や金属製品加工の仕事が回ってきたため、消耗資材が中心ではあるが、販売量が増加している。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・1年の最繁忙期にもかかわらず、通常月と変わらない受注量にとどまっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取扱物件は減少傾向にあるが、ホームユースは底堅い需要がみられる。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙、飲料、医薬品について、輸送量に大きな変化はみられない。
		金融業（企画担当）	それ以外	・公共工事が大幅に減少している。建設業が地域を支えている市町村が多いため、その影響は深刻である。個人消費は、一部の業種には政策支援効果もみられるが、全般的に低価格志向が強いことから、企業業績は伸び悩んでいる。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引は若干伸びているようにもみられるが、依然として低調に推移している。建物の建築関係も低調である。

	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子	・発注元が原価を下げようとしており、より厳しい条件での注文が増えている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・農作物の収穫が不調であるため、農家からの需要が減少している。
やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・加工原材料の高騰から、一部の商品の価格を値上げしたが、他の商品に振り替える傾向が強まっており、受注量が減少している。
	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先や同業者から、暇だという話をよく聞く。
	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・公共工事の設計業務委託の入札件数が一段と減少している。最低制限価格近くでの落札も多く、最低制限価格の設定がない場合には予定の半額以下で落札されている。
	司法書士	取引先の様子	・円高や中国関係などの問題が景気に影響を与えており、心理的に住宅の新規着工や土地取得などの高額商品に手を出しづらい状況が続いている。景気が回復するとの見通しを付けづらいことが購買意欲の減退する要因となっており、不動産取引の減少につながっている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年比でのマイナス幅が3か月前よりも大きくなってきている。
悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、建物の新築が相変わらず低迷している。
雇用関連		-	-
	良くなっている		
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から5.8%増加しており、8か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年から10.9%増加し、8か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	それ以外	・管内における9月の有効求人倍率は0.42倍となり、前年を0.08ポイント上回った。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ここ3か月、月間求人広告受注件数は横ばい傾向にある。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人倍率が少しずつ上昇しているが、求人の雇用形態は依然としてパート求人が多い。計画が立てづらい、先の読めない景気の低迷が背景にある。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・9月の新規求人数は前年を19.8%上回った。一方、新規求職者数は前年を2.1%上回った。月間有効求人倍率は0.52倍となり、前年の0.39倍を0.13ポイント上回ったものの、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は、依然として4割台にとどまっている。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・当社では行政からの委託で就職支援施設の運営をしており、その施設で毎月求人を収集しているが、ここきて求人数が減少傾向にある。特に中高年の求人、女性が希望する事務系の求人が停滞している。また、派遣のオーダーも低迷している。更に、契約満了に伴う継続事例も減少している。
	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・2011年卒業者を対象とする求人の動きが鈍化するなか、企業訪問や来学の採用担当者から本年度採用についての総括をもらうが、2012年卒業者の採用数の上向きを見込むという情報は皆無である。今年度、優秀な人材にこだわって進められた厳選採用の方向性は今後も維持され、買手市場3期目を迎えることになる。
悪くなっている		-	-